



## 増える授業時数にどう対処するのか

前号でお知らせしたとおり、中学年への外国語活動と高学年への外国語科の導入により、授業時数を増やさなければならなくなりました。移行期間は3・4・5・6年生で15時間、完全実施になると35時間も授業時数が増えるのです。学校では1年を35週として計算しているのですが、2020年からは、毎週1時間（1コマ）授業時間を増やすことが必要となります。

今の時間割を見ると、3年生は一週に5時間授業の日が月・水・金の3日あるので、そのうちのどこかを6時間授業にすると何とかかなりそうです。問題は4年生以上です。今でさえ5校時までの日が水曜の週一回しかなく、他は全て6時間授業です。では水曜日を6時間授業にすればいいではないか、と思われるかもしれませんが、なかなかそう簡単にはいきません。水曜を5時間にしているのは、研修や会議の時間を確保するためです。ですから水曜の5時間授業は教師にとっては貴重です。仮に水曜を6時間授業にすると、児童が帰るのが午後3時40分過ぎなので、会議開始は急いで4時からということになります。勤務時間は4時45分までなので、研修や職員会議の時間が45分しか取れなくなってしまいます。学校では他にも色々と会議があり、ただでさえやりくりしながら会議や研修の時間を確保しているのに、これではどうにもなりません。

移行期間の来年と再来年は、年間15時間増だけなので、水曜を隔週で6時間授業とするなどの工夫で何とかできます。しかし、完全実施となると年間35時間増となるので毎週6時間にする必要があるわけです。私は、完全実施の2020年度を見据えて、移行期間の時間割を考える必要があると思っています。移行期間のその場しのぎの時間割ではなく、完全実施となってもスムーズに移行できるような時間割が必要です。では、どうするか。今、考えているのは

「午前中で5時間目までの授業を終える日課にする」ということです。

これだと、全ての曜日を6時間授業にしても会議や研修の時間を確保できます。余裕ができた時間を補習に活用できるかもしれません。ちなみに日課表は、例えばですが、下記のようになります。

朝のはじまりの時刻が早くなりますが、今でも子どもたちは8時前には学校に来ているので大丈夫です。1・2年生は帰りの時刻が若干早まりますが、児童クラブも十分に対応できる時刻です。何よりもこの日課にすることで、次のような効果が考えられます。

- ・主な教科を脳が活性化している午前中に集中的に行うことで、効率的な授業を展開することができる。
- ・午後から出張でも、自習にする授業が少なくなる。
- ・行事など、授業を削ることなく行うことができる。
- ・余裕ができた時間で児童の補習や行事の練習時間を確保できる。

他にも考えられますが、余裕をもった教育活動ができるという大きなメリットがあるということです。

これから日課表を検討し、できれば2月から試行してみたいと考えています。やってみた上で再度検討し、来年度からの移行期間に備えたいと思っています。

朝の会	8:00～8:10
1校時	8:10～8:55
2校時	9:00～9:45
すこやか	9:45～10:05
3校時	10:05～10:50
4校時	10:55～11:40
5校時	11:45～12:30
昼食	12:30～13:15
そうじ	13:15～13:30
昼休み	13:30～13:55
昼読書	13:55～14:05
6校時	14:05～14:50
帰りの会	14:50～15:00